

# 都市型ボランティア活動大特集

～リンクしよう！明学&港区のNPO～



## ミニ講義 NPOでボランティア活動をするということ

講師 小原 宗一氏

(日本ボランティアコーディネーター協会運営委員長/本学卒業生)

## 港区内のNPOによるリレー活動紹介

参加NPO一覧 (紹介順)

人工呼吸器をつけた子の親の会 東京都支部

特定非営利活動法人 エコスクラブ

NPO視覚障害者支援ネットワーク Strawberry Field

ストロベリーフィールド  
連合東京ボランティアサポートチーム

みなと工房

特定非営利活動法人 生活福祉ネットワーク

特定非営利活動法人 日本アロマテラピー活動サポートセンター

認定特定非営利活動法人 JHP・学校をつくる会

特定非営利活動法人 日本ゆび編み協会

クリエイティブ・アート実行委員会

7月1日(木) 午後6時30分～9時

手話通訳付

会場 明治学院大学 白金キャンパス 本館10階大会議場

協力：明治学院大学ボランティアセンター

後援：港区教育委員会、

社会福祉法人港区社会福祉協議会

主催：明治学院大学社会学部附属研究所



みなさん、ようこそ「都市型ボランティア活動大特集」へお越しく下さいました。

きょうは、港区内で、地域の課題を解決しようと活躍しているさまざまなNPO（民間非営利団体）10団体が、生の声で、生の言葉で、それぞれの活動を紹介してくれます。

本学の地元港区内で活躍するNPOにすぐその場でリンクできますよ。

NPOからのメッセージがみなさんにしっかり伝わりますように・・・。

2004年7月1日

明治学院大学社会学部付属研究所

## ●本企画「都市型ボランティア活動大特集」への道のり●●●

明治学院大学社会学部付属研究所 相談・研究部門では、2000年度より地域の福祉課題への土壌づくりをめざし、また具体的なボランティア活動を推進する目的で、ボランティア講座を開催してきました。

2002年7月の「都市型ボランティア活動とは?～企業の社会貢献と市民参加～」をテーマとする基調講演とパネルディスカッション開催を契機に、2003年度は「都市型ボランティア活動に関する研究会」を行い、港区内を中心とするNPO・ボランティア活動関係者の皆さんと、都市ならではのボランティア活動等について、討議の場を持ちました。

そして、研究会で積み重ねた討議を基に「都市型ボランティア活動フォーラム」(2003年12月開催)を企画・開催しました。本フォーラムでは、都市で活動を展開するNPOやボランティア活動者の諸課題について提起し、参加者とともに意見交換を行いました。

本企画「都市型ボランティア活動大特集～リンクしよう!明学&港区のNPO～」は、上記研究会の中で出された要望・意見等、港区内のNPO等のメンバーらの「ボランティアをもっと募集したい、地域の人をもっと巻き込みたい」「学生にもボランティアとしての協力をいっぱい呼びかけたい」との声を踏まえ、地域の皆さんと本学の学生を対象に、港区内のNPOにおける『ボランティア活動プログラム』を紹介したいという目的で企画しました。

## ■ミニ講義 **NPOでボランティア活動をするということ**

講師 **小原 宗一 氏**

日本ボランティアコーディネーター協会運営委員長  
本学卒業生

### 小原宗一（おばらそういち）氏プロフィール

明治学院大学社会福祉学科出身。学生時代は勉強よりも軽音楽部でバンドの活動にのめり込む。プロになれるほどのテクを持つ仲間達の中で、演奏技術よりも人を楽しませる役割で存在意義の確立を目指す。養護施設で学習ボランティアをするが、勉強を教えるというより遊んでもらっていたという感じ。

やっとのことで卒業後、「指を指せば内定がとれる」というバブル絶頂期に、一般企業の数割安の給与で北区社会福祉協議会に就職。母親談「せっかく大学まででたのに・・・。」

しかし時代は流れ、1994～95年度に東京都社会福祉協議会に出向。東京ボランティア・センター（当時）に勤務した1995年度に全国ボランティアコーディネーター研究集会（JVCC）東京大会の事務局を担当したことから研究集会に関わる。

その後、北区社会福祉協議会でボランティアセンターの運営に携わりながら、全国のJVCC実行委員らとともに日本ボランティアコーディネーター協会（JVCA）の設立に参加する。

現在、東京都北区NPO・ボランティアぷらざに勤務のかたわら、日本ボランティアコーディネーター協会運営委員長を務める。日本NPO学会会員。

<p>団体名</p>	<p align="center"><b>人工呼吸器をつけた子の親の会</b> 東京都支部</p>
<p>所在地・活動拠点等</p>	<p>本部：大阪市吉野4-29-20 NPOプラザ115号 ※ 東京都支部連絡先は幹事宅(港区白金)</p>
<p>TELNO.</p>	<p>03-3442-7566 ※ 連絡可能な時間帯： 18:00以降</p>
<p>FAXNO.</p>	<p>03-3442-7566</p>
<p>Eメール</p>	<p>miki.ikedo@sirokane.com</p>
<p>団体の紹介</p>	<p>人工呼吸器をつけた子ども達（バクバクっ子）が、どんなに障害や病気が重くても、“ひとりの人間、ひとりの子ども”として輝きながら今を生きるための環境づくりをめざしている。</p>
<p>参加者へのメッセージ</p>	<p>「バクバクの会」は1989年5月、長期にわたって呼吸器をつけている子ども達の安全で快適な入院生活と生きる喜びを願って、淀川キリスト教病院の院内グループ7人から発足しました。現在は340家族の正会員と、賛助・購読会員が約300名います。</p> <p>バクバクとは手動の人工呼吸器（アンビューバッグ）を使ってバギングする時の音です。</p> <p>バクバクっ子の生活領域の拡大、QOLの向上はめざましいものがあります。外の世界を見るための動物園や水族館などへの外出、家庭生活を味わうための外泊の取り組みは、子どもの成長と共に広がっていきました。在宅生活をして地域の保育所や学校に通学したり、新幹線や飛行機フェリーに乗って旅行したり、立山登山やスキーをしたり… どうしたら安全性を確保しながら実行できるのか、と前向きに考え、呼吸器をつけていても出来る事の実践を積み重ねてきました。</p> <p>家族だけの力では限りがあり、平坦な道のりではありませんでしたが、理解ある人々の支援・協力で成し遂げてきました。反面、公的サービスの不備や人工呼吸器という一般にはなじみのうすい器械をつけた生活ゆえに、子ども達や親の直面している課題は深刻で多岐にわたっています。</p> <p>輝きながら今を生きるために……。一緒に考えてくださる方、一緒にチャレンジしてくださる方を募集しています！</p> <p>2002年8月、会員増加に伴い東京都支部が発足しました。現在54家族が正会員限定の支部便りを通して悩みや工夫を共有しています。会員間の交流も活発になったことから、東京都支部として全体交流会を希望する声が増え、企画検討中。</p> <p>このイベントも、一緒に知恵と力を出してくださる方を募集中です！</p>

<p>プログラム名</p>	<p>輝きながら今を生きるために</p>		
<p>目的</p>	<p>人工呼吸器を必要とする子ども達とのかかわりを通して、お互いの人生を豊かに広げる。</p>		
<p>具体的な活動内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸器を必要とする子どもの生活支援。 (放課後の過ごし方、勉強の手伝い、外出介助etc)</li> <li>・交流会の手伝い。(あそび相手、バーベキュー大会の企画etc)</li> </ul>		
<p>求められるボランティア像 (技能・知識・体力・年齢など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもとかかわることが好きな人。</li> <li>・子どもとの約束を守れる人。</li> <li>・不可能を可能にするためにチャレンジする人。 (一緒にチャレンジしてくれる人)</li> <li>・車椅子、ストレッチャーをおせたらBetter。</li> </ul>		
<p>活動の時期・頻度</p>	<p>週1回1時間位から。 月1回でも可。</p>	<p>活動場所</p>	<p>バクバクッ子の家。 その他。(日常生活範囲)</p>
<p>プログラム責任者</p>	<p>支部幹事</p>	<p>ボランティア担当者</p>	<p>支部幹事(池戸)</p>
<p>ボランティアが得られる メリット・特典</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命の力強さ、子ども達の無限の可能性をリアルで体験できます！</li> <li>・医療を必要としながら地域で生活する意味を深く深く考えることができます！</li> <li>・医療スタッフ、教育関係者と共に知恵と力を出しあい、課題に取り組む充実感があります！</li> <li>・「あたりまえ」に思うことが実はとてもSpecialだと理解できるようになります！</li> <li>・もれなく子どもの笑顔がついてきます！！</li> </ul>		

## 団体情報

<p>団体名</p>	<p>特定非営利活動法人 <b>エコスクラブ</b></p>
<p>所在地・活動拠点等</p>	<p>〒108-0074 港区高輪1-2-16</p>
<p>TELNO.</p>	<p>03-5449-1300</p>
<p>FAXNO.</p>	<p>03-5793-1302</p>
<p>Eメール</p>	<p>yamamura@ecos-club.net</p>
<p>団体の紹介</p>	<p>企業や研究者との協働で開発された「除菌消臭液」を使用して、環境団体の立場から必要とされる施設へ無償提供することを計画しています。</p> <p>NPO団体としての活動のあり方、支援のあり方など、本質的な活動ができるように改善している時期で、今後「細菌対策」「消臭対策」に力を入れるために、新たな気持ちでスタートしようとしている環境団体です。</p> <p>事務所は白金高輪。</p>
<p>参加者へのメッセージ</p>	<p>3年間以上も「自動車排ガス汚染問題」の改善活動を実施してきました。NPO環境団体としての活動のあり方について、想像していた以上の困難を経験することができました。（NPOとしての限界、環境対策者の意識、行政の対応）その反省を踏まえて、「根本的な活動のあり方」「本質的な支援のあり方」の見直しを行う時期にきました。</p> <p>エコスクラブが開発に関わった「除菌消臭液」を無償提供するに際して、本質的な支援の方法を新たに考えたく、活動を一緒になって行えるボランティアスタッフを募集します。</p> <p>NPOとしてのあり方や活動方法をスタッフの一員として一緒になって考えませんか。交通費やお弁当は提供します。</p>


<p>プログラム名</p>	<p>空間の安全支援プログラム</p>		
<p>目的</p>	<p>エコスクラブが開発に携わった「除菌消臭液」を必要としている施設へ本質的な無償提供するための支援活動。</p>		
<p>具体的な活動内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「除菌消臭液剤」を無償で有効に使用してもらえる方法を考え、施設へ支援を実施する活動。</li> <li>支援先案：幼稚園・保育園・児童館・特養施設・貧困国への支援。</li> <li>・本プログラムの本質を支援企業に説明し協力を得る説明活動。</li> </ul>		
<p>求められるボランティア像 (技能・知識・体力・年齢など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援先の施設が「心から喜ばれる」本質的な支援方法を考えながら実行できるボランティア。</li> <li>・パソコンを少しでも使える方。</li> <li>・施設などの相手に優しく説明できる方。</li> </ul>		
<p>活動の時期・頻度</p>	<p>出来る日でOK 月に2~4回希望</p>	<p>活動場所</p>	<p>エコスクラブ事務所 及び周辺施設</p>
<p>プログラム責任者</p>	<p>エコスクラブ</p>	<p>ボランティア担当者</p>	<p>統括専務理事 山村徳護</p>
<p>ボランティアが得られる メリット・特典</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単なる無償支援ではなく、「心から喜ばれる」本質的な支援のありかたを一緒になって研究できます。</li> <li>・〔喜び〕〔感謝〕の意味の追求が出来る。</li> <li>・施設への訪問、事務所までの交通費を支給します。</li> <li>・5時間以上の活動には食事を出します。</li> </ul>		

# 団体情報

<p>団体名</p>	<p style="text-align: center;">NPO視覚障害者支援ネットワーク  <b>Strawberry Field</b> (ストロベリーフィールド)</p>
<p>所在地・活動拠点等</p>	<p>〒104-0054 中央区勝どき1-5-1-1405</p>
<p>TELNO.</p>	<p>03-5166-0423</p>
<p>FAXNO.</p>	<p>03-5166-0423</p>
<p>Eメール</p>	<p>mike218@d4.dion.ne.jp</p>
<p>団体の紹介</p>	<p>国内外のさまざまな取り組みによって、障害者に対する理解や認識は、着実に深まりつつあります。ボランティア活動などを通して、積極的に障害者にかかわろうとする人が増え、法の整備に伴って交通機関や建造物などのバリアフリー化も徐々に進んでいます。</p> <p>しかしながら、その一方で障害者に対する差別や偏見は、厳然と存在しています。就学や就労、社会参加についてなど、障害者と健常者の機会均等が必ずしも図られているとはいえません。多くの障害者が、社会の障壁を今もって強く感じています。</p> <p>こうした差別や偏見は、障害者とのコミュニケーションの不足や、正確な知識が欠けているために生じるものと思われます。「障害」とは何か、あるいは障害者自ら何ができ、どの部分において支援を必要とするのかなど、障害者に対する正しい理解と認識こそが、差別や偏見を払拭し、共生社会を進展させます。</p> <p>本会は、障害者に対し、正しい理解と認識を持っていただけるように、広く社会に向け、活動するとともに、障害者と健常者が相互理解を深めることのできる「場」の創造を目指してまいります。</p> <p style="text-align: center;">【これまでの活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2002年4月7日・宮家浩美作品朗読会 「盲目の少年」 / 港区立赤坂区民センター</li> <li>・2002年7月26日・宮家浩美作品朗読会 「盲目の少年」 / 港区立障害保健福祉センター（共催：港区立障害保健福祉センター）</li> <li>・2002年11月2日・視・聴覚障害者教養講座 「詩とエッセーの朗読会」 / 豊島区目白庭園（主催：豊島区教育委員会）</li> <li>・2003年5月23日・宮家浩美作品朗読会 「捕まった宇宙人」 / 港区立障害保健福祉センター（共催：なでしこ会（視覚障害者交流会）、なご実の会・みなと（障害者生け花教室））</li> <li>・2003年11月9日・宮家浩美作品朗読会 「笑う劇場」 / 港区立赤坂区民センター バリアフリーシアターIN赤坂（主催：港区スポーツふれあい文化健康財団、企画：NPO視覚障害者支援ネットワーク、Strawberry Field、運営：バリアフリーシアタージャパン、後援：港区、港区教育委員会、港区社会福祉協議会）</li> <li>・2004年2月8日・バリアフリーシアター「朗読と音楽のつどい」 / 港区立高輪区民センター（主催：港区スポーツふれあい文化健康財団、企画・運営：NPO視覚障害者支援ネットワーク Strawberry Field、協力：バリアフリーシアタージャパン、（特）東京臨海地域開発研究会）</li> </ul>
<p>参加者へのメッセージ</p>	<p>私どもは、朗読会の開催を柱に活動してまいりましたが、障害者の社会参加を促し、障害者と健常者の相互理解が深まるように、より幅広い活動を目指しております。これまでもさまざまなかたちでボランティアの皆さまには、ご支援をいただいております。ボランティアの皆さまのご協力があればこそ、継続した活動が実現いたしております。</p> <p>私どもの活動趣旨をご理解いただき、興味・関心を寄せてくださる皆さまには、積極的にご参加いただけるよう願っております。</p> <p>お一人お一人の持ち味を生かしていただき、自己実現の「フィールド」となり得るように活動してまいりたいと思っております。</p>



プログラム名	<b>ガイドヘルパーボランティア</b>		
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚に障害を持つ人など、外出に介助を必要とする人に対し、安全に外出できるように介助を行う。</li> <li>・障害を持つ人たちの社会参加の機会を増やす。</li> <li>・公的サービスによるガイドヘルパー派遣事業を補完し、地域在住・在勤・在学者による支援ネットワークを構築する。</li> <li>・障害を持つ人と持たない人の相互理解を深め、共に生きる社会の実現を目指す。</li> </ul>		
具体的な活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外出介助の依頼を受けて活動。</li> <li>・依頼者の外出を介助する。</li> <li>・および共にイベントや催しに参加する。</li> </ul>		
求められるボランティア像 (技能・知識・体力・年齢など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外出の介助が可能な人</li> <li>・人との出会いを楽しむことのできる人</li> <li>・守秘義務が守れる人</li> <li>・好奇心が旺盛な人</li> </ul>		
活動の時期・頻度	外出介助の依頼を受けて活動。	活動場所	依頼の内容により異なる。
プログラム責任者	宮家 浩美	ボランティア担当者	宮家 浩美
ボランティアが得られるメリット・特典	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドヘルパーの基本知識が習得できる。</li> <li>・障害を持つ人たちと交流できる。</li> <li>・Strawberry Field が企画、主催する催しには無料で参加できる。</li> <li>・各種イベントや催しに無料で参加できることもある。</li> </ul>		

<p>団体名</p>	<p><b>連合東京ボランティアサポートチーム</b></p>
<p>所在地・活動拠点等</p>	<p>〒108-0023 港区芝浦3-2-22 田町交通ビル2F</p>
<p>TELNO.</p>	<p>03-5444-0510</p>
<p>FAXNO.</p>	<p>03-5444-0303</p>
<p>Eメール</p>	<p>fukushi@jtuc.rengo-tokyo.gr.jp</p>
<p>団体の紹介</p>	<p>連合東京（日本労働組合総連合会東京都連合会）が、1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災を契機に、労働組合の具体的社会貢献活動の必要性に気づき、労働組合における災害時のボランティアリーダー養成のための研修を行うため、1997年4に設立された。連合東京は東京に働く仲間をつくる労働組合で組合員は約95万人。 事務所は芝浦。</p>
<p>参加者へのメッセージ</p>	<p><b>研修プログラム</b> 連合東京ボランティアサポートチームは現在第8期のメンバーが研修を行っています。年間10回の研修プログラムでロープ・三角巾を用いた応急救護訓練や帰宅困難者対応訓練などを行っています。</p> <p><b>災害対応</b> 連合東京ボランティアサポートチームは国内で発生した災害に対して、以下の通りメンバーを派遣し活動に従事して参りました。</p> <p>①1998年9月 北関東集中豪雨被災地への救援活動 ②2000年7月 三宅島噴火災害降灰除去作業と全島避難後に開催された「三宅島島民ふれあい集会」への協力 ③2003年7月 宮城県北部地震での災害救援ボランティアセンターの立ち上げと運営協力</p> <p><b>他団体との連携</b> 連合東京ボランティアサポートチームは、東京災害ボランティアネットワークの一員として、単に災害対応にとどまることなく、他団体との交流を通じ、人間関係を基礎としたネットワーク作りにも重きを置いています。そのため、東京災害ボランティアネットワークが主催する各種イベントや活動にも積極的に参加します。</p> 

<p>プログラム名</p>	<p><b>市民による防災訓練～帰宅困難者対応訓練～</b></p>		
<p>目的</p>	<p>大都市災害を考えると、交通機関の遮断による帰宅困難者の問題がある。東京直下型地震が発生した場合、帰宅困難者は371万人とも言われている。 自ら帰宅困難者になった場合、私たちはどのように行動するかについて、広く市民・企業・行政等に呼びかけ訓練を実施する。</p>		
<p>具体的な活動内容</p>	<p>① 徒歩帰宅訓練 帰宅困難者が我が家に帰るには徒歩しか手段がない、今回は実際に徒歩帰宅を疑似体験することでその困難と対応の必要性に気づく。 (東京駅～千葉県市川市 約18キロ、それ以外にも5～10キロコースも設ける) ② エイドステーション設置訓練 徒歩帰宅を始めた人たちに対しどのような支援が考えられるか？ガソリンスタンドや学校などで給水・情報提供など沿道での支援を行う。 ③ 情報伝達訓練 無線・バイク・携帯電話・PC・壁新聞などによる情報伝達訓練。</p>		
<p>求められるボランティア像 (技能・知識・体力・年齢など)</p>	<p>① 健康で体力に自信のある方 (徒歩訓練に参加したい方) ② 東京駅～市川市までの街道沿いに事業所がある、またはお住まいの方 (沿道支援を行っていただける方) ③ バイクを普段から乗っている方、無線が使える方、パソコン操作に詳しい方 (情報伝達訓練に参加したい方)</p>		
<p>活動の時期・頻度</p>	<p>2004年8月29日 (日) 08:00～19:00</p>	<p>活動場所</p>	<p>東京駅～千葉県市川市</p>
<p>プログラム責任者</p>	<p>東京災害ボランティアネットワーク 事務局長 上原泰男</p>	<p>ボランティア担当者</p>	<p>東災ボ事務局 福田信章 03-3235-1171</p>
<p>ボランティアが得られるメリット・特典</p>	<p>① 災害時を想定し、自らが帰宅困難者になった場合の起こりうる想定に対して疑似体験できる。 ② 災害時の食事とはどういうものかを体験できる。 ③ パソコンなど得意な分野をいかして、災害時に対応したボランティア活動ができる。 ④ これらの体験から自分の住む地域や職場での防災訓練など、今後の取り組みにいかすことができる。</p>		

## 団体情報

団体名	みなと工房
所在地・活動拠点等	〒105-0023 港区芝浦1-14-8 ベルハイム田町201
TELNO.	03-3455-8140
FAXNO.	03-3455-8140
Eメール	minato@pop06.odn.ne.jp
団体の紹介	<p>心の病をもつ人たちが社会へ歩み出すステップとして、また安定した生活を維持するために通う場。軽作業、レクリエーションを通して自立した日常生活と社会復帰を目標としている。 所在地は芝浦。</p>
参加者へのメッセージ	<p>精神に障害を持つ人達が福祉施策の対象になってからまだ日も浅く、旧来の偏見的イメージは今だ払拭出来ていません。ボランティアの皆様始め多くの方々との触れ合こそがノーマライゼーション実現の最初の一步と思います。</p>

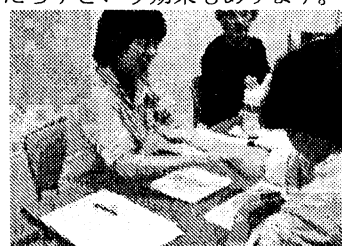
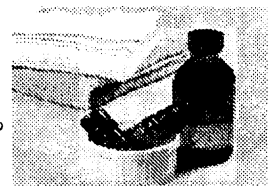
プログラム名	<b>自主製品の製作補助</b>		
目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自主製品を製作販売することによりみなと工房の存在及び精神障害者の活動を周知する。</li> <li>2. 資金面で不安定なみなと工房の財政安定化の一策。</li> <li>3. ボランティアの方々と関わることによる利用者の意識の活性化。</li> </ol>		
具体的な活動内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 綺麗なビーズによるネックレス、織り機の使用等による繊細な柄の小物などの可愛いアクセサリーの製作補助。</li> <li>2. 手作りの暖かみと製品としての信頼感を信条とする手作りカードの製作補助。</li> </ol>		
求められるボランティア像 (技能・知識・体力・年齢など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者とともに活動の中で、冷静に判断し落ち着いて活動のできる方。</li> <li>・手先の器用な方。</li> <li>・アイデアの豊富な方。</li> </ul>		
活動の時期・頻度	当工房の作業日（月～木）10：00～14：30の間で御都合にあわせて。御自宅での活動も可能です。	活動場所	みなと工房及び自宅
プログラム責任者	所長：高橋 裕子	ボランティア担当者	所長：高橋 裕子
ボランティアが得られるメリット・特典	<p>今流行のビーズづくりや可愛いカードづくりが覚えられます。また、最初におつくりいただいた製品はお持ち帰りいただいております。</p>		

## 団体情報

団体名	特定非営利活動法人 <b>生活福祉ネットワーク</b>
所在地・活動拠点等	〒108-0073 港区三田3-4-15-308
TELNO.	03-3451-3765
FAXNO.	03-3451-3178
Eメール	tlw2005@ai.wakwak.com
団体の紹介	男女共同参画社会をつくろうと12名の女性で設立した団体。生ゴミの堆肥化、食育等にとりくみ、循環型福祉のまちづくりをめざしている。 事務所は三田、六本木の「みなとNPOハウス」も拠点。
参加者へのメッセージ	「タウンボラみなど」で、コミュニケーションの技術を勉強しながらボランティアしましょう。

<p>プログラム名</p>	<p>都市型ボランティア活動を実践する 「タウンボラみなと」</p>		
<p>目的</p>	<p>都市だから必要なボランティア活動を、「ボランティア、CB(コミュニティビジネス)、NPO」がコラボレートして循環型福祉のまちづくりに取り組みます。</p>		
<p>具体的な活動内容</p>	<p>毎週の「木曜サロン」を通して、循環型福祉のまちづくりについて一緒に考えます。</p>		
<p>求められるボランティア像 (技能・知識・体力・年齢など)</p>	<p>お互いを認め、相手を受容する力を育てる努力のできる人。</p>		
<p>活動の時期・頻度</p>	<p>「木曜サロン」 ※毎週木曜日 午後1時～4時</p>	<p>活動場所</p>	<p>みなとNPOハウス</p>
<p>プログラム責任者</p>	<p>生活福祉ネットワーク 代表：柳川</p>	<p>ボランティア担当者</p>	<p>生活福祉ネットワーク 代表：柳川</p>
<p>ボランティアが得られる メリット・特典</p>	<p>先見性と30年の草の根ボランティア活動と一緒に活動することで今後の日本のボランティア活動の原形を見ることができる。</p>		

<p>団体名</p>	<p>特定非営利活動法人 日本アロマセラピーサポート活動センター</p>
<p>所在地・活動拠点等</p>	<p>〒106-0032 港区六本木7-3-22-2F 乃木坂グリーンハウス内</p>
<p>TELNO.</p>	<p>03-3470-5318 ※ 連絡可能な時間帯：10:00～19:00（日・月休み）</p>
<p>FAXNO.</p>	<p>03-3470-5337</p>
<p>Eメール</p>	<p>npo@nogizaka-aroma.co.jp</p>
<p>団体の紹介</p>	<p>全ての人々に対し、アロマセラピーに関わる情報とサービスを提供し、精神・肉体ともに健やかに豊かに暮らせる社会づくりと、福祉・健康の増進に寄与することをめざしている。 事務所は乃木坂。</p>
<p>参加者へのメッセージ</p>	<p>日本アロマセラピー活動サポートセンターでは、アロマセラピーを活用したボランティア活動をおこなっています。まず、アロマセラピーとはなんぞや？という疑問があるかと思えます。</p> <p>癒しブームといえるほど、一般にも広く知られるようになったので名前だけのご存知の方も多いためです。すでに家庭でよく利用している方もいるかもしれません。アロマセラピーとは、植物の花・果実・根・茎・種子などから、香りがする成分だけを取り出した精油（エッセンシャルオイル）を利用して、心や身体のトラブルを穏やかに癒し、健康増進や美容に役立てていこうとする自然療法です。具体的には使用方法としては、そのまま香りを嗅いだり、お風呂に入れたり、植物油にブレンドしてマッサージをしたりします。</p> <p>私たちは、マッサージオイルをブレンドし、病院や施設を訪問して、患者さんや利用者、施設の職員の方にハンドマッサージをおこなっています。このマッサージでは、香りとタッチングで気持ちがいいのはもちろんのこと、エッセンシャルオイルの成分が皮膚をとおして浸透し、身体に深いリラクゼーションをもたらすという効果もあります。</p> <p>この活動は7年前、アロマセラピーを勉強していた方たちと品川区の高齢者施設で、ハンドマッサージのボランティアを行ったことがきっかけでした。2000年にNPO法人を設立し、都内を中心にボランティア活動を広め、ボランティア育成のための講座を開催しています。5月に実施したイギリス研修では、高齢者施設、産科病棟、ホスピス、がんセンター、で痛みの緩和、心のケア、終末医療などの選択肢のひとつとしてアロマセラピーが利用されているのを目にしてきました。</p> <p>今後、日本の医療福祉においても患者や利用者の意思を尊重し、さまざまな選択肢の中から選ぶ時代がやってくるでしょう。私たちは多くの方にこのボランティア活動に参加してもらい、それぞれが経験を家族や地域に持ち帰り、育てていくサポートをしていきたいと考えています。</p>





<p>プログラム名</p>	<p>① アロマセラピーで地域交流ボランティア ② 活動取材 &amp; 広報誌編集ボランティア</p>		
<p>目的</p>	<p>① アロマセラピーに関わる情報とサービスを提供し、心身ともに健やかに豊かに暮らせる社会づくりを推進する。 ② アロマセラピーボランティアをより多くの人に知ってもらうために活動取材し、広報誌にレポートを掲載する。さまざまな立場の方に活動に参加してもらう。</p>		
<p>具体的な活動内容</p>	<p>① ・病院・福祉施設を訪問し、患者、利用者、職員の方にアロマセラピーハンドマッサージを行う。 ・ボランティアのための研修講座・スキルアップ講座の開催。 ② ・活動日に同行し、活動風景を取材する。 ・アンケートの集計。 ・広報誌の編集。 ・ホームページ用レポートの作成。</p>		
<p>求められるボランティア像 (技能・知識・体力・年齢など)</p>	<p>① ・アロマセラピーに興味があり、ハンドマッサージができる方。 (研修講座有) ・人と接することが好きで、話を聞くのが得意な方。 ② ・医療・福祉の現場でのボランティア活動に興味がある方。 ・人と接することが好きで、話を聞くのが得意な方。 ・パソコンが自由に操作でき、メール環境がある方。</p>		
<p>活動の時期・頻度</p>	<p>①② 月1～2会</p>	<p>活動場所</p>	<p>① 都内病院、老人ホーム、デイサービスセンター ② 事務所（乃木坂）、取材場所、自宅</p>
<p>プログラム責任者</p>	<p>代表理事：大場 直緒</p>	<p>ボランティア担当者</p>	<p>①② 桑本 友紀</p>
<p>ボランティアが得られるメリット・特典</p>	<p>① ・アロマセラピーや関連する健康情報に詳しくなれる。 ・生活の中に取り入れるアロマセラピーが習得できる。 ・自分や身近な人の健康の増進にも応用できる。 ・マッサージを通してさまざまな方と触れ合うことができる。 ・とても喜んでもらえるので充実感を感じることができる。 ② ・取材をとおしていろいろな人を知り合える。 ・個人では見られないことを見たり、聞けないことを聞けたりする。 ・アンケート集計をとおして、ボランティアを受ける人、ボランティアをする人両方の意見を知ることができる。 ・広報誌・ホームページに掲載されるので、形に残る成果があり達成感が味わえる。 ・交通費支給（1,000円まで）</p>		

## 団体情報

<p>団体名</p>	<p>認定特定非営利活動法人 <b>JHP・学校をつくる会</b></p>
<p>所在地・活動拠点等</p>	<p>〒106-0032 港区六本木4-7-14 みなとNPOハウス 1階</p>
<p>TELNO.</p>	<p>03-5414-1774 ※ 連絡可能な時間帯：平日（月～金） 10：00～18：30</p>
<p>FAXNO.</p>	<p>03-5414-1776</p>
<p>Eメール</p>	<p>jhp@tokyo.email.ne.jp</p>
<p>団体の紹介</p>	<p>カンボジアに教育支援を行って11年。これまで小学校や師範学校を101棟建設し、正式科目ではない音楽・美術の授業を行い、教師を育成しています。 また年2回、3月と8月に、日本の若者の育成を兼ねた、海外ボランティアを派遣し、「顔の見える支援」を行なっています。 事務所は六本木の「みなとNPOハウス」内。</p>
<p>参加者へのメッセージ</p>	<p>「国の発展と民主化は基礎教育の充実から」をモットーとし、カンボジアに教育支援を行なっています。 1970年代後半のポルポト政権時に、知識人が虐殺され、教師の8割が殺されたと言われています。この教師の少ない国、教育の遅れた国カンボジアに、学校をつくり、教育の機会を提供しています。 また日本の若者をカンボジアに派遣して、顔の見える支援を行なっております。学校の校庭に子どもたちの為に遊具をつくり、交流会では日本の文化を紹介したり、カンボジアで活躍するNGOの見学等を行なうことにより、日本の若者へ考え、感じる機会を提供しています。 当会のカンボジアボランティアの経験者は、その後広く海外に飛び出しております。「海外支援の第一道場」にあなたも参加してみませんか。</p>

プログラム名	<b>カンボジアボランティア隊</b>		
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>①21世紀を担う若者達への地球市民教育実践。</li> <li>②物やお金だけでなく、日本人の顔の見える援助の実践。</li> </ul>		
具体的な活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊具建設（ブランコ、バレーコート等）</li> <li>・日本からの支援物資輸送（机、椅子、文房具、楽器等）</li> <li>・交流会での日本の文化紹介</li> <li>・現地NGO視察</li> </ul>		
求められるボランティア像 (技能・知識・体力・年齢など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気温40度の炎天下で作業できる、体力と情熱のある方</li> <li>・18歳以上</li> <li>・性別問わず（高校生不可）</li> <li>・団体行動のとれる方</li> <li>・技能がなくても大丈夫</li> <li>・英語を話せなくても大丈夫</li> </ul>		
活動の時期・頻度	8月・3月（年2回）	活動場所	カンボジア
プログラム責任者	小山内 美江子	ボランティア担当者	北村 充宏
ボランティアが得られるメリット・特典	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「顔の見える」国際協力を経験できます。</li> <li>・カンボジアを通して日本のことを考えるようになります。</li> <li>・一生の友ができます。</li> <li>・自分をみつめる、みつめなおす機会になり、人生のターニングポイントになります。</li> </ul>		

## 団体情報

<p>団体名</p>	<p style="text-align: center;">特定非営利活動法人 <b>日本ゆび編み協会</b></p>
<p>所在地・活動拠点等</p>	<p>〒108-0073 港区三田5-4-7</p>
<p>TELNO.</p>	<p>03-5442-1521</p>
<p>FAXNO.</p>	<p>03-5442-1521</p>
<p>Eメール</p>	<p>shinohara@yubiami.com</p>
<p>団体の紹介</p>	<p>物事が必ずしも思い通りに行かない事や、克己心・忍耐力・創造性等の大切さを、ゆび編みを通じて子供達に、障害の有無・男女の別無く・子供から大人まで楽しめるゆび編み（篠原くにこ考案）を世界中に伝える。 事務所は三田。</p>
<p>参加者へのメッセージ</p>	<p>物作りという教育は、人格形成には欠く事の出来ないもので、その中にはいろいろな教育があるものだが、現代の受験中心の教育にはどうしても省力化し易くなって来てしまっている。ただ、その物作りも、楽しいと感じてもらわなくてはならないが、従来の編物、他の創作活動は完成までに長い時間が掛かり、一番味わってもらいたい達成感を味わう前に挫折してしまう事が多く、現代のテンポには、なかなか受け入れてもらえなかったが、ゆび編みは、その達成感を味わうまでに2・3時間しか掛からず、その喜びを味わう事が出来る。</p>

<p>プログラム名</p>	<p>ゆび編みで脳の活性化を図りませんか</p>		
<p>目的</p>	<p>針を使わず指先だけで毛糸を編んで作品を創る。 →脳の活性化</p>		
<p>具体的な活動内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者・障害者・小中学生等に、ゆび編みを楽しんでもらって、その補助をすること。</li> <li>・センター等でのセッティングの助け。</li> </ul>		
<p>求められるボランティア像 (技能・知識・体力・年齢など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創作活動上での発想と応用してくださる方。</li> <li>・また、ゆび編みという新しい編み物をどう展開すればいいのか一緒に考えてくださる方。</li> </ul>		
<p>活動の時期・頻度</p>	<p>秋冬が主。 週1回または月2回くらい。</p>	<p>活動場所</p>	<p>高輪福祉会館、港区芝高齢者福祉センター、芝公園児童館、芝公園ボランティアセンター 他</p>
<p>プログラム責任者</p>	<p>篠原くにこ</p>	<p>ボランティア担当者</p>	<p>細谷良子</p>
<p>ボランティアが得られるメリット・特典</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆび編みインストラクターの資格を、短期で習得することができる。(2日間特別講座：18,500円)</li> <li>・医師と患者さんとのパイプ役を遊びを通じてつなぐ手助けができる。</li> <li>・患者さんを明るく楽しくすることができる。</li> </ul>		

## 団体情報

団体名	クリエイティブ・アート実行委員会
所在地・活動拠点等	〒107-0062 港区南青山4-6-10-101
TELNO.	03-3479-8535 ※ 連絡可能な時間帯：平日10:00～20:00
FAXNO.	03-3402-5438
Eメール	MuseKK@aol.com
団体の紹介	<p>海外の優れたコミュニティ・アーティストやコミュニティ・アート団体とのコネクションをベースに、個人とコミュニティを元気づけるさまざまなアート活動を行っている。 事務所は南青山。</p>
参加者へのメッセージ	<p>クリエイティブ・アート実行委員会は、1990年の設立より、「コミュニティを元気にする」「コミュニケーションをうみだす」ことを目的にさまざまなアート活動を実施してきました。</p> <p>活動の形態は多岐にわたりますが、障害のある方や高齢者の方、病院に長期入院中の人達等が、アーティストと一緒にダンスや美術、音楽などの表現活動を行うことで、自らの思いやアイデンティティを確認していこうという「時間」や「場」を作り出すことが、私達の大切な役目です。</p> <p>こうした活動を全国的に展開すると共に、2001年からは、自分達の活動拠点である「港区」のコミュニティを元気づける活動がしたい！と「みなと区コミュニティ・アート・プロジェクト『私と町の物語』」を開始しました。これは、みなと区にゆかりのある全ての人に、いつもは見過ごしてしまいがちな「地元のこと」～人、町、懐かしい記憶、新しい風景～に「ふと」目を向けて、考えてもらうためのきっかけを、このプロジェクトを通してつくっていこうとするものです。</p> <p>毎年1度開催する、プロジェクトの総決算としての展覧会。 皆さんもぜひ、サポートメンバーの一人として、この展覧会に力をかしてください！ どうぞよろしくお願ひいたします。</p>

<p>プログラム名</p>	<p align="center"><b>みなと区コミュニティ・アート・プロジェクト 第3回「私と町の物語」展覧会サポートボランティア</b></p>		
<p>目的</p>	<p>「私と町の物語」は、開発の進む東京港区に生きる子供達からお年寄り、障害のある人など皆が参加して、アーティストと一緒に、自分達の大切な思い出や町への思いを作品にすることで、町の記憶を探り、これからの町を考えていこうとする活動です。 このプロジェクトの年に1度の展覧会に向けて、作品づくりや展覧会準備を手伝ってくださるサポートボランティアさんを募集しています。</p>		
<p>具体的な活動内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お年寄りから、昔の思い出を聞き書きする</li> <li>・名簿や写真のデータ管理</li> <li>・子供達や障害のある人とアーティストとのワークショップ・アシスト</li> <li>・広報作業などの補佐</li> <li>・展覧会時には会場での受付、案内</li> </ul> <p>*こういった作業の中から、皆さんにご自分に合ったものを選んでもらっています。</p>		
<p>求められるボランティア像 (技能・知識・体力・年齢など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人とコミュニケーションをとることが好きな方。</li> <li>・人の話を聞くのが好きな方。</li> <li>・こつこつと作業を積み重ねていくのが得意な人。</li> <li>・聞き書き～文章を書くのが好きな人。書くことに興味のある人。</li> <li>・歴史や写真、アートなどが好きな人。</li> <li>・パソコンを使える人。</li> </ul> <p>*いずれも必須ではありませんので興味のある方は、ご連絡ください。一緒にできることを探していきたいと思います。</p>		
<p>活動の時期・頻度</p>	<p>随時～2005年3月31日までの間 週1日程度</p>	<p>活動場所</p>	<p>事務所、取材場所、ワークショップ会場、展覧会場 (だいたい港区内での活動)</p>
<p>プログラム責任者</p>	<p>事務局長 伊地知裕子</p>	<p>ボランティア担当者</p>	<p>専従スタッフ 小堺直子</p>
<p>ボランティアが得られる メリット・特典</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さな作業を積み重ねて最後に展覧会という形に結実させることで、大きな達成感が得られる。</li> <li>・聞き書き～文章修行にもなる！、、、かもしれない。</li> <li>・港区の歴史や昭和史にくわしくなる。</li> <li>・小学生から高齢者まで、地元のいろんな人と出会える。</li> <li>・アーティストの活動や作品作りを間近で体験できる。</li> </ul> <p>(昨年度参加アーティスト：谷川俊太郎、YukoNexus6、マヤ・マックス、佐野眞一) (今年度参加予定アーティスト：山田うん(ダンサー)、赤松正行(メディアアート)、他交渉中)</p>		

## ボランティア活動

ボランティア活動とは、生命、平和、人権が尊重され、個々人の自己表現や生きがいを追求できるような多様で豊かな市民社会（一人ひとりが大切にされ、一人ひとりの違いが尊重され、活かされるような社会）を市民たち自身の手でつくっていく活動であり、その特徴として、「自主性・主体性」「社会性・連帯性」「無給性・無償性」「先駆性・開拓性・創造性」の4つの原則がある。

### ①自主性・主体性

ボランティア活動は、あくまでも、個人の自由意志に基づいてなされる活動であり、他から強制されたり、義務として行う活動ではない。

### ②社会性・連帯性

ボランティア活動は、誰もがいきいきと豊かに暮らしていける社会をつくるために、同じ市民としてお互いに支え合い、学び合いながら進めていく活動である。

### ③無償性・無給性

ボランティア活動は、金銭的な報酬を期待して行う活動ではない。しかし金銭では得られない人と人との出会いや発見、感動、喜び等の精神的報酬を得ることができる。ただし、交通費や材料費など実費弁償については無償の範囲と考える。

### ④先駆性・開拓性・創造性

ボランティア活動は、今、社会で何が求められているのかを考え、行政や関係機関あるいは広く社会に働きかけながら、より豊かな社会を市民自身でつくっていく活動である。

出典：「ボランティア・コーディネーター研修体系とその考え方」

ボランティア・コーディネーター研修体系検討委員会報告書(1996年東京ボランティア・センター発行)

## ボランティアの語源

ボランティアという言葉は、「自由意志」を意味するラテン語の「Voluntarius」を語源としているといわれています。辞書によれば、「強制されたのではなく、自らの意志で報酬を求めずに活動する人」という記載が見られます。

日本ではこれまで、ボランティアというと「慈善」や「奉仕」と思われがちでした。しかし語源を見ると、もともとはそのような意味ではなく、ひとりひとりが自由な意志と主体性を持ち人から命令されるのではなく、自分自身で考え、行動することを大切にしようという考え方に根ざすものです。このボランティアという言葉を表す適切な日本語がありませんので、そのまま使われています。

また、このような考え方を生み出す背景にある「ボランタリズム (Voluntaryism)」という言葉の中には、キリスト教の歴史の中で信仰や教義が国家や権力から干渉されたり強制されたりしない立場を意味するものが含まれています。こうした勢力からの自由という考え方から、表現の自由や思想・信仰の自由という基本的人権が生まれてきたと



いわれています。こうしてみると「ボランティア」は、民主主義や自治の原点を表すものとして考えられている側面を持つといえるでしょう。

出典：「200万人のボランティアセンター」（1998年発行都内社会福祉協議会城西ブロック-練馬・杉並・中野・板橋・豊島-ボランティアセンターボランティアコーディネーター有志）

## Q.NPOとは何ですか？

A. NPOとは、英語の Nonprofit Organization ということばの頭文字をとったものです。Non は「非」、profit は「利益を目的とした」、Organization は「組織」で、訳すると「非営利組織」となります。また、行政機関ではないことを明確にするために、「民間非営利組織」と訳されることもあります。営利を目的とする団体（会社）に対して、営利を目的としない民間団体の総称として使われています。本来的に法人格を持っているかどうかは、問題ではありません。

法人制度上の非営利法人は、日本では社団法人や財団法人、社会福祉法人、学校法人、宗教法人、生協法人、労働組合、農協など多数あります。これらの団体は、広い意味ですべて NPO といえますが、日本の法制度のしくみから、これらの法人や団体は、行政の監督や許認可のもとに置かれ、自由な活動がなかなかできないできました。

これに対し、近年、行政の縦割りや監督を超えて、自由に自律的に活動する民間の非営利団体が増えてきました。これらの組織は、保健福祉の増進、文化・芸術・スポーツの振興、まちづくり、国際協力、災害救助、人権の擁護などの幅広い分野で活躍するようになりました。市民が自発的に活動を組織していることが多いことから、このような活動を「市民活動」とか「市民公益活動」ということもあります。近年、新聞紙上などで紹介されている NPO は、こうした市民活動を行う団体を指していることが多いようです。（狭義の NPO）

出典：シーズ=市民活動を支える制度をつくる会

ホームページ <http://www.npoweb.jp/>「よくある質問」より

## Q.NPOとNGOは、違う性質のものですか？

A. NGOは、Non-Governmental Organization の略語で「非政府組織」と訳されます。これは国連憲章に起源を持つ言葉です。もともと国家間では解決しにくい難民問題などを扱う国連の経済社会理事会が協力関係を持つ非営利組織を指して、この呼称が使われてきました。非政府組織といっても営利を目的とする企業は含まれませんから、実際上、NGOはNPOということになります。

企業との対比を強調する場合は NPO、行政との対比を強調する場合は NGO というように使い分けられているようです。また、国際的なネットワークをもって活動する NPO を指して、NGO と表現される傾向があるようです。

出典：シーズ=市民活動を支える制度をつくる会

ホームページ <http://www.npoweb.jp/>「よくある質問」より

## Q. ボランティア活動とNPO活動は、どう違うのでしょうか？

A. ボランティアというのは、「個人」に注目した言葉で、NPOというのは「団体」に注目した言葉です。ボランティア活動の特徴である「無報酬性」と、NPO 活動の特徴である「非営利性」とをときどき混同して、「あの団体は、NPO のくせにお金を稼いでいるのはおかしい」とか、「ボランティアでやっているのだから収益事業を行わないのが当たり前」という言葉を聞くことがありますが、これは誤解です。

**非営利性**というのは、団体としては、活動経費や管理費などを稼ぐけれど、そこで余ったお金（利益）を構成員で分配しない（個人の懐にいれない）で、さらなる活動に使うことを意味しています。一方、**無報酬性**は、個人が働いたことの対価としてお金（報酬）をもらわないことを意味しています。

よって、NPO が職員を雇っている場合の給料というのも、団体の経費であって、利益の分配には当たりません。NPO にとっては、団体としてお金を稼ぎ、その団体のなかに報酬をもらう職員と、報酬をもらわないボランティアがいることはむしろ当然の姿だといえます。

また、ボランティアとNPOでは、ボランティアが活動に参加する側であるのに対し、NPOはボランティアの参加する場をつくる、参加を求める側であるといえるでしょう。

出典：シーズ＝市民活動を支える制度をつくる会

ホームページ <http://www.npoweb.jp/>「よくある質問」より

## コミュニティビジネスとは何か？

コミュニティビジネスとは、「市民が介護、育児、環境保護などの地域の様々な課題をビジネスチャンスと捉え、ビジネスの手法で解決してゆくことであり、地域におけるコミュニティの再生と地域経済の活性化を同時に達成できる地域づくりの新しい手法」と考える。

<コミュニティビジネスの特徴>

- ① コミュニティの課題を、従来のように税金を投入する行政の手法でなく、ビジネスチャンスと捉えて、ビジネスの手法により解決する。
- ② 担い手は、アントレプレナーシップ（起業家精神）をもってコミュニティの課題を解決する「市民起業家」であること。
- ③ 営利と非営利の両面を有する。
- ④ 介護、福祉、育児、家事支援、教育、環境保護、動物愛護、ものづくり、観光、まちづくり、コンテンツビジネスなど、いろいろな分野にわたる。

出典：「地域を豊かにするコミュニティビジネスのビジネスモデルに関する調査研究」（2002年経済産業省関東経済産業局発行）第1章コミュニティビジネスの概念整理

**都市型ボランティア活動大特集～リンクしよう！明学&港区のNPO～資料集**

2004年7月1日 発行

編集・発行 明治学院大学社会学部附属研究所 相談・研究部門

〒108-8636東京都港区白金台1-2-37

TEL03-5421-5204/5205 FAX03-5421-5205

Eメール [issw@soc.meijigakuin.ac.jp](mailto:issw@soc.meijigakuin.ac.jp)